

## 4000万人の頭痛 143

## 千夜一夜の頭痛物語

最近、中年女性患者さんでしばしば遭遇する雷鳴頭痛 その1  
(可逆性脳血管攣縮症候群 (Reversible Cerebral Vasoconstriction Syndrome: RCVS))

文 清水俊彦

text by Toshiko Shimizu

元来、片頭痛は脳血管内のセロトニンの異常な増減に伴い脳血管が収縮し、その後通常より拡張することにより、脳血管周囲の三叉神経を刺激してその情報が脳に伝播して痛みの水面下で脳の興奮症状を起こす頭痛です。このような状態は通常、1〜3日で正常化するため、生命予後に支障をきたす病気ではありません。

しかし片頭痛持ちの中年女性が、急性に頭痛の性質が変化し、特に入浴性交もしくは息んだ際に、雷の如く、突然の頭痛に見舞われ、頭痛が悪化している際には、このRCVSを疑う必要があります。このような頭痛は脳血管が複数箇所でも異常な攣縮(れんしゆく)を起こし、この状態が数週間続いたため、診断が遅れると、脳梗塞やクモ膜下出血を起こし生命予後に支障をきたすことがあります。また、この



ような頭痛に対して片頭痛の頓服薬で、異常に拡張した脳血管を収縮させ頭痛を治めるトリプタン製剤を服用し続けると、最悪、この血管攣縮部位を助長する可

能性もあるのです。経験上、このRCVSは中年以降の女性に多いことから、セロトニンと構造の近似している女性ホルモンであるエストロジェンの変動が関与している可能性が高いのです。

今回受診された50歳台の女性は元来片頭痛があり、トリプタン製剤で対処していたようですが、2週間前から連日頭痛が起り、特に入浴すると突然に雷鳴頭痛が起るため、入浴に恐怖感を覚えていたようです。また更年期ということもあり、女性ホルモン様の働きをするイソフラボンを配合したサプリメントを連日服用していたのです。明らかに因果関係は不明ですが、病態から想像すると、RCVSを助長する因子となった可能性は否定できません。トリプタン製剤の服用は即時に中止していただき、血管を安定させかつ片頭痛を予防する効果のある塩酸ロメリジンを予防的に処方し、また近年、片頭痛に関連した神経炎症タンパクであるカリシトニン遺伝子関連ペプチドであるCGRP (Calcitonin Gene-related Peptide) の働きを抑制し片頭痛を予防する抗CGRP抗体薬の注射剤を併用、更に片頭痛発作時の頓服薬として、脳血管には作用せずに三叉神経の大元で

ある三叉神経核にあるセロトニン受容体に作用するラズミジタンという新薬を処方して経過観察、MRIをフォローアップすることとしたのです。

元来片頭痛持ちの方が、3日以上頭痛が続く際には、このような病態も考慮して診療に当たらないかならないのです。

## Profile

日本脳神経外科学会認定医、日本頭痛学会監事を歴任。日本頭痛学会認定専門医。東京女子医科大学病院脳神経センター頭痛外来客員教授、獨協医科大学神経内科学講座臨床准教授、一般社団法人グリーフケアパートナー理事。

ほかに、汐留シティセンターセントラルクリニック、阿見第一クリニック、小山すずきの木クリニック、マミーズクリニック、伊豆大島医療センターの頭痛外来を担当。

昭和61年3月日本医科大学卒業。学会活動をはじめ、NHK「きょうの健康」「クローズアップ現代」など、テレビ出演も多い。『頭痛女子のトリセツ』（マガジンハウス）をはじめ、頭痛関連の著書多数。



新刊「マンガでわかる 頭痛・めまい・耳鳴りの治し方」  
監修/清水俊彦 推薦/佐渡島庸平  
新紀元社(1,100円(税込))販売中。

